

九月定例会

平成25年9月定例議会を、9月3日から9月25日までの23日間の会期で開催しました。

一般質問を12名全員が行い、「平成25年度一般会計補正予算（第6号）」や「平成24年度一般会計歳入歳出決算の認定を求めることについて」など17議案を審議しました。

こ に は
ん ち

し も す わ 町 議 会

で す

目次

議長あいさつ・議会組織図	2
主な議案の内容と審査内容	3
平成24年度決算内容	4
委員会報告	5
議案、陳情、意見書採決結果一覧	6
提出された陳情、意見書の内容	7
一般質問	8
議会改革を進めます	14
議会報告会アンケート結果など	15
議会雑感・編集後記	16

平成25年(2013)11月8日

編集／議会だより編集委員会 発行／下諏訪町議会

電話(0266)27-1111 FAX(0266)27-1237

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp/gikai/index.html>



大きな夢を運べ！（第10回町民スポーツ祭）



下諏訪町町議会議長
中村 奎 司

町づくりの 主役はあなた

議会だより発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

下諏訪町議会は任期の後半スタートに際し、さらに信頼される議会、町民の負託に応え得る議会を目指し、決意を新たにしております。その一つが、議会基本条例の制定であり、議会報告会の実施、各種団体との懇談会であり、この議会だよりの発行であります。その第一弾として本日ここに議会だよりをお届けすることになりました。

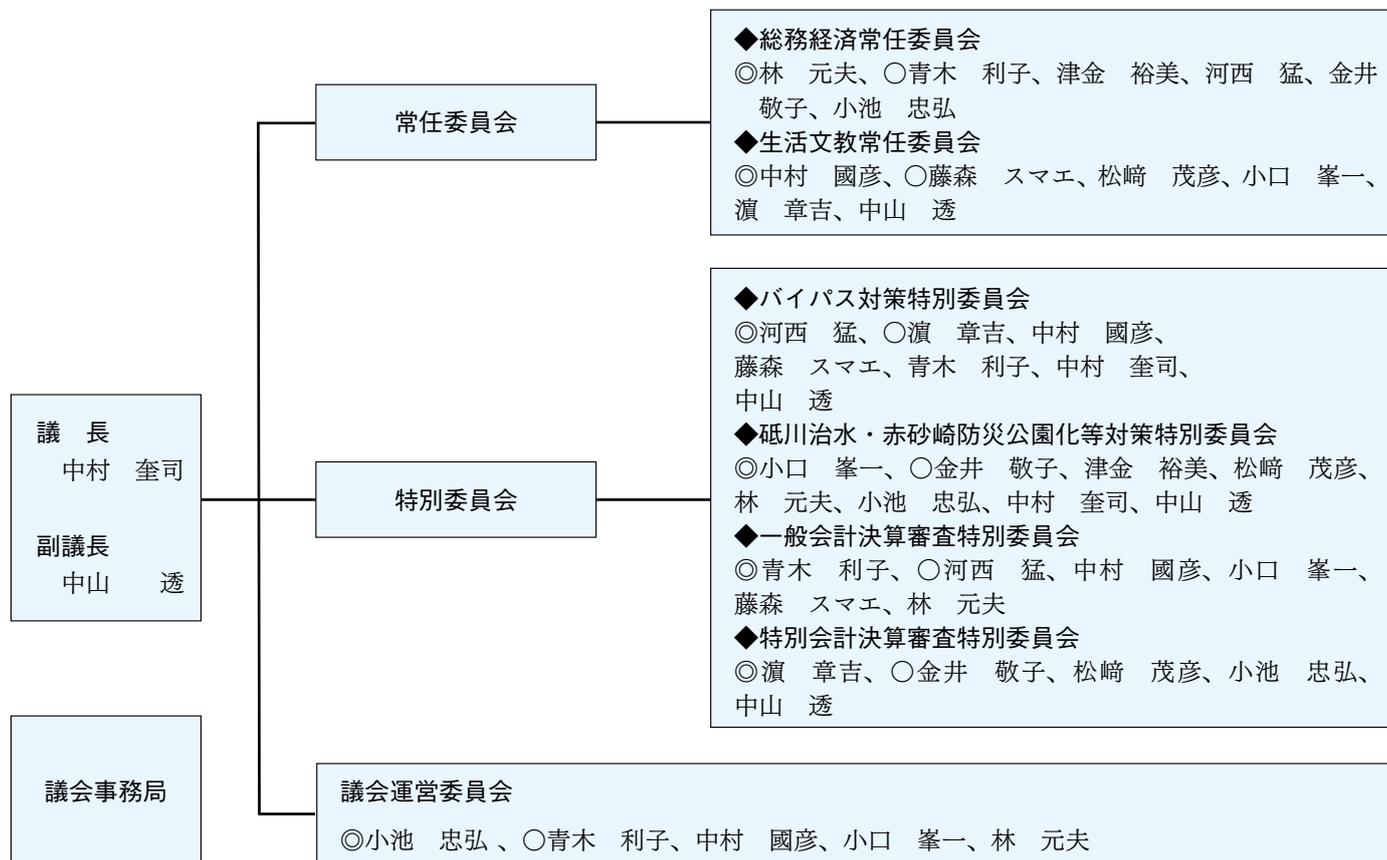
さて、現在わが国は、長い間のデフレ経済から、アベノミクスと称したりフレ経済政策に転じ、高揚感と若干の危惧を感じつつも、閉塞状態から抜け出ようとしております。た

だ、その変化の急激さに、一抹の不安を感じるのも事実であります。消費税が来年四月から8%になることも決定され、その影響も心配される所々ではあります。従って、当下諏訪町議会と致しましても、広く世界、日本の動向に気を配りながら、地元自治体施策の、地に着いた方向付けに、関わっていくことが、肝要であろうと考えております。

その為私は、議長就任挨拶で、議会を議員間の議論の場にする事、議会報告会・議会だよりの発行のほか、各種団体との懇談を出来るだけ多くすることにより、住民の皆さんの中に入り込み、ご意見を聞く機会を増やす事を言いました。そして、先ずは、やってみようではないかと提案いたしました。そのことが、議会の活性化になり、住民が議会に関心を持ち、住民一人ひとりが、町づくりの主役になって、住んでみないまち、住んでよかった町を築き上げる、と信ずるからであります。この議会だよりは議会改革の嚆矢（こうしや）であります。二の矢・三の矢をしっかりと準備して、住民の皆さんの負託にこたえるべく、議員一同邁進してまいる所存でございますので、今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

下諏訪町議会は この構成です

◎委員長、○副委員長



平成24年度 一般特別 会計決算 審査・認定される



九月定例会で審査された議案内容

☆子ども・子育て会議条例の制定

国の「子ども・子育て支援法」に基づき、町の「子ども・子育て支援事業計画」や、子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関わる事務を処理するための合議機関として、任期2年の委員10人以内の「子ども・子育て会議」を設置するもの

☆今年度一般会計補正予算（第6号）総額1億8,332万9千円

●町内循環バス「あざみ号」運行事業費の減額

●国・県の補助を受けての、地域密着型特別養護老人ホーム「和音」への補助金

●「健康スポーツゾーン構想」の拠点としての高木運動公園の改築事業費 等

☆今年度一般会計補正予算（第7号）総額1,995万円

●高浜に建設される高齢者健康施設改築事業費

☆庁舎空調設備改修工事請負契約の締結について

★平成24年度一般会計、特別会計決算

☆各常任委員会での審査内容は6ページにて、報告

★各決算審査特別委員会での審査内容は次ページにて、報告

一般会計決算審査特別委員会報告

委員長 青木 利子

一般会計はたいへん広範囲ですの
で主なものについて報告します。

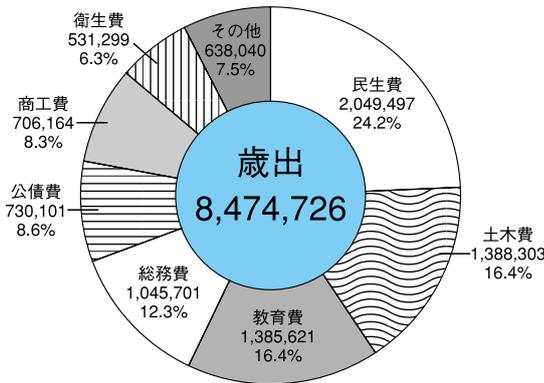
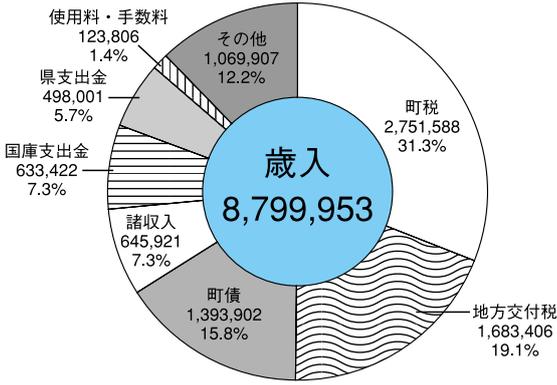
住民環境課については、生ごみ減
容リサイクル事業で1,670世帯
が参加し、生ごみは8トンの減に。

教育子ども課では学校支援地域本
部事業の中学校区が5年経過で定
着し、新たに下中学校区本部がで
き、読み聞かせや寺子屋が行われま
した。

税務課では税金の収納率
94.47%で、前年対比0.72%
の増。収納対策室を設置以前の3年

平成24年度下諏訪町一般会計決算

(単位：千円)



前より収納率が2.6ポイント上昇。

産業振興課は「下諏訪町のづく
り支援センター」を活動拠点として、
企業間連携や産学官連携による新分
野・新市場展開への取り組みを支援。

建設水道課における道路維持補
修工事は、年次計画で7,000万
円、小規模補修工事については3、
000万円であったが、住民要望を
多く取り入れ随時実施しました。

消防課の救急救命士は現在7人で
10月に2人が消防学校から戻り9人
体制になります。現状でも救急車1

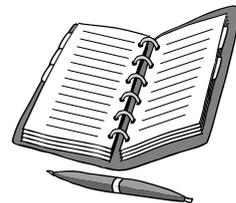
台に1名が乗車しています。

総務課の下諏訪力創造チャレンジ
事業支援金は4,713,250円
で、17件の申請のうち、14件に支援
した。当初に比べると地域の人が町
おこしに力を入れており、住民に浸
透しています。

討論では、「補助金や交付金、支
援金の活用など、アンテナを高くし
て各事業に取り組んでいる」、「滞納

特別会計決算審査特別委員会報告

委員長 濱 章吉



整理や納税相談に努力し、不納欠損
額、収入未済額の減少を実現してい
る」、「消防施設整備について、民公
協働作業を行ったことは金額以上に
評価したい」の賛成討論があり、認
定されました。

審査では、適正に予算が執行され
ているか、期待した行政効果が得ら
れているか、また今後の改善点は何
か、等に主眼をおき審査を行いました。

健康保険特別会計の審査の過程で

主な質疑、意見等では「収入済額の
前年比増、収入未済額(未収入額)
が前年比減であること、更に不納欠
損額の理由は」の質疑に対し「不納
欠は、生活困窮者、行方不明、その
他死亡や帰国等により生じたもの
で、その額は5百万円。滞納者の実
態を把握し、滞納整理が進んできた。
税法にしたがって不能欠損処分をし
た」との説明がありました。

歳出においては、抑制を図るため
「疾病予防が大切ではないか」、「ジェ
ネリック医薬品使用により医療費の
抑制が図られるのでは?」の質疑に
対し、「医療機関等とも協議の場を
設けたい」との説明がありました。

**下水道事業、駐車場事業、後期高
齢者医療、交通災害共済事業、温泉
事業、特別養護老人ホーム事業、東
山田財産区等の各特別会計決算、並
びに水道事業会計の剰余金の処分及
び決算**について、審査を行いました。
其々要望が付された賛成討論があ
り、採決の結果、挙手全員で、全特
別会計の決算が認定をされました。

総務経済常任委員会

委員長 林 元夫

所管する課は、総務課・税務課・産業振興課・建設水道課・消防課・会計課及び議会事務局の7課です。

9月定例会、議案第54号は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ83億1,198万円とするもの。内容は、ふるさとまちづくり寄付金1千70万円を基金に積み立てるもの。高木運動公園改築事業費2,240万円など。

審査にあたる前に、高木運動公園など4か所を現場調査しました。討論では、町の財政支出が少なくてできる事業である。また高木

運動公園は健康ゾーン構想で一貫性があるなど賛成討論があり、挙手全員。原案通り可決しました。

議案第68号は、庁舎空調設備改修を行い、冬季に備えるものです。



現地視察風景

生活文教常任委員会

委員長 中村國彦

所管する課は、住民環境課・健康福祉課及び教育こども課の3課です。

9月定例会、議案第53号下諏訪町子ども・子育て会議条例の制定については、合議制機関として子ども・子育て会議を設置する事は、今後多様化する住民ニーズに対応することで賛成。挙手全員で可決。議案第54号では、あざみ号をJRに購入してもらい、予算減額するもの等、挙手全員で可決。議案第57号は人事異動に伴う補正であり、運営を充分検討し事業

の継続を願うと挙手全員で可決。議案第69号平成25年度一般会計補正予算は、高浜に建設する高齢者健康施設改築事業の補正で温泉の一部を循環利用するためのもの。



あざみ号、ワゴン車出発式

各委員会では、こんな活動をしています

議会運営委員会

委員長 小池忠弘

本委員会は、議会運営に関する諸般の協議を目的に設置されており、長から議会招集がある度に会議を開き、付議案件の概要について執行機関から報告を求め、円滑に議会が運営できるよう協議し、態勢を整えます。

さらに近年、地方議会の改革が求められる中、開かれた議会、説明責任、議会の透明性確保など喫緊の課題に 대응するため、諏訪地方初の「議会基本条例」制定準備、議会だよりの発行、議会報告会の開催、各種団体との懇談会など議会活性化と改革に向けて、取り組んでいます。

バイパス対策特別委員会

委員長 河西 猛

本委員会は、バイパスの調査および研究を目的に設置されています。

当町における事業の進捗状況ですが、下諏訪岡谷バイパス第一工区については、現在修正設計の基礎資料となるボーリング調査実施中。あわせて、各区の要望事項ヒヤリングが行われ、検討ならびに修正設計が進められています。

諏訪バイパスが動き出したことから、諏訪市と合同による広報チラシ(広報諏訪バイパスVOL.1)が発行されました。

国土交通省、長野県建設部への要望活動も精力的に行われています。

砥川治水・赤砂崎防災公園化等対策特別委員会

委員長 小口峯一

本委員会は、砥川治水・赤砂崎防災公園化等の調査および研究を目的に設置されています。

砥川治水対策事業に伴う富士見橋架け替え工事は、長野県と国土交通省が協定を結び、道路管轄者の国土交通省が工事を担当。すでに着工されており、工期は平成26年3月末まで。

赤砂崎防災公園事業については、建築家の伊東豊雄さんに全体イメージ図をお願いしており、11月中旬に成果品をいただくことになっていきます。今年度は、ヘリポート周辺の工事が行われます。

一目でわかる議決結果 9月定例会

平成25年9月定例会議決結果

議案第53号	下諏訪町子ども・子育て会議条例の制定について	可決（全員）
議案第54号	平成25年度下諏訪町一般会計補正予算（第6号）	可決（全員）
議案第55号	平成25年度下諏訪町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決（全員）
議案第56号	平成25年度下諏訪町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	可決（全員）
議案第57号	平成25年度下諏訪町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算（第1号）	可決（全員）
議案第58号	平成24年度下諏訪町一般会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第59号	平成24年度下諏訪町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第60号	平成24年度下諏訪町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第61号	平成24年度下諏訪町駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第62号	平成24年度下諏訪町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第63号	平成24年度下諏訪町交通災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第64号	平成24年度下諏訪町温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第65号	平成24年度下諏訪町特別養護老人ホーム事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第66号	平成24年度下諏訪町東山田財産区会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定（全員）
議案第67号	平成24年度下諏訪町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	認定（全員）
議案第68号	下諏訪町庁舎空調設備改修工事請負契約の締結について	可決（全員）
議案第69号	平成25年度下諏訪町一般会計補正予算（第7号）	可決（全員）

陳情審査結果

平成25年陳情第11号	私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情	第1項 趣旨採択（全員） 第2項 採択（全員）
平成25年陳情第12号	憲法第96条の発議要件緩和に反対する陳情	採択（多数）

意見書案議決結果

平成25年意見書案第6号	私立高校への公費助成に関する国への意見書	可決（全員）
平成25年意見書案第7号	私立高校への公費助成に関する県への意見書	可決（全員）
平成25年意見書案第8号	憲法第96条の発議要件緩和に反対する意見書	可決（多数）
平成25年意見書案第9号	4月からの消費税増税の実施中止を求める意見書	否決（可否同数により議長裁決）

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ表示しています

議員名（議席順） 議案番号等	議決等結果	中	津	河	中	松	小	金	藤	濱	青	林	小	中
		村	金	西	村	崎	口	井	森	木	元	池	山	
		奎	裕	猛	國	茂	峯	敬	スマエ	章	利	元	忠	透
平成25年陳情第12号	採択（多数）	斜線	○	×	×	○	×	○	○	×	○	○	○	×
平成25年意見書案第8号	可決（多数）	斜線	○	×	×	○	×	○	○	×	○	○	○	×
平成25年意見書案第9号	否決（可否同数により議長裁決）	斜線	○	×	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×

議案等賛成者は「○」とし、反対者は「×」とします。退席者は「退」、欠席者は「欠」としています。

議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

意見書

9月定例会で可決された意見書の内容は、次のとおりです。

→国に提出

私立高校への公費助成に関する国への意見書

独自の建学の精神に基づき、多様なカリキュラムにより個々の生徒の個性を育むことによって、学習・文化活動、スポーツ、地域への貢献等に大きな成果を上げている私立高校ですが、その経営は極めて厳しいものです。この意見書は、私立高校への就学支援金制度の拡充並びに私学助成の大幅増額補助を行うことを求めるものです。

「私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情 第2項」の採択を受け、提案されたものです。

憲法第96条の発議要件緩和に反対する意見書

憲法第96条で定められている憲法改正の発議案件を、「各議院の総議員の3分の2以上の賛成」から「過半数の賛成」に改正しようとする動きが強まっている。改憲手続きのハードルを低くし、簡単に憲法が改正されるとすれば、基本的人権の保障が形骸化される恐れもあります。この意見書は、憲法改正の発議要件を緩和しようとする憲法第96条の改正を行わないよう、要望するものです。

「憲法第96条の発議要件緩和に反対する陳情」の採択を受け、提案されたものです。

→県に提出

私立高校への公費助成に関する県への意見書

この意見書は、私立高校への就学支援金制度の拡充並びに私学助成の大幅増額補助を行うことを求めるものです。国に対しての意見書提案と同じ理由によるものです。

「私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情 第2項」の採択を受け、提案されたものです。

ちょっと知りたい、
議会のアレコレ

? 意見書とは ?

地方自治法の規定に基づき、議会は、町の公益に関することについて、国や県の関係機関などに対し、議会としての意思を意見としてまとめた文書を提出することができます。意見書の案は、議員または委員会が提出し、本会議でその可否を決めます。



青木利子議員

財政について

新年度予算編成に向けた決算状況の反映について

質問 私たちの生活は苦しい毎日ですが生活に密着している町税の25年度の見通しと24年度決算を踏まえた26年度の展望は

答弁 個人町民税は、10億2,000万円を、法人町民税は1億2,200万円は確保できる見通し。固定資産税は10億5,190万円でおおむね見込みどおりの状況。

質問 審査意見書の中で「良好な状態の維持と更なる向上」としている点について26年度の取り組みは

答弁 4年前から収納対策室を設置。職員が

一丸となったの収納率の向上に向けた頑張りが数字に表れてきていると評価している。今後も経済状況を踏まえ相談業務等をやっていききたい。

観光振興について

中山道アンケート結果をうけて温泉で足を洗う旅籠に

質問 中山道を歩こうと訪れた人を対象にしたアンケートであったそうですが今後の中山道交流事業にどう繋がっていくのか

答弁 アンケートのサンプル数が全体で110件のうち下諏訪が27件。目的は健康増進が30%、自然散策が24%、街道制覇が16%です。日帰りが62%のうち下諏訪が1%。宿泊が27人で予算が1万円までが15人、1万円以上が12人というアンケート結果。また街道を制覇したい人が多

く、宿場町単位で目的地を設定している。今後はプレイベントに参加して、メディアを活用して町歩きとは違った新たな観光情報の発信を計画している。

観光振興について

中山道アンケート結果をうけて温泉で足を洗う旅籠に

質問 中山道を歩こうと訪れた人を対象にしたアンケートであったそうですが今後の中山道交流事業にどう繋がっていくのか

答弁 今回の3つの商工会議所と観光振興局を含めての調査には大きな可能性がある。町長のキャッチフレーズも「中山道と甲州街道が交わる」ですから町の特色として唱えていきたい。



保育の質 向上をめざして



金井敬子議員

質問 保育園3園体制が開始されて3年目になったが、未満児保育や、長時間保育、一時保育などが今後も増加することが予想される。どう対応していくか。

答弁 3歳未満児は増加しているが、来年度・再来年度をピークに園児数は減少傾向に転ずる見込み。3園定員5百人で今後も維持できる。

質問 入園説明会に、託児の準備をすべき。

答弁 園長等が託児を実施しているの、広報する。

質問 町長の統廃合について評価と、今後の保育の考え方は。

答弁 より安全で良い

環境で保育できるようになった。今後、アンケート調査でニーズを把握し、対応。

質問 国の進めようとしている「子ども・子育て新システム」についての見解は。

答弁 全国一律の制度はなじまない。保育における公の役割は大事。当町では、今後も公的施設で対応していく。

非正規職員 処遇改善を

給食用食材放射

質問 給食用食材放射線物質検査結果を、町ホームページ上でわかりやすく表示して。

答弁 改善していく。

質問 町の正規職員は全体の48%、保育園では32%。多くを担っている非正規職員に雇用替えすること、ならびに、非正規職員の処遇改善を望みたい。

答弁 若手の人材育成

風しん予防接種 補助、福祉医療 拡大を

を考えると、雇用替えは、困難。処遇については、今後も改善を図りたい。

質問 成人の風しん予防接種への補助を。

答弁 考えてない。

質問 予防接種の啓蒙を。

答弁 対応する。

質問 乳幼児等の福祉医療費の対象を、高校3年生までに。また、障害者対象の拡大を。

答弁 乳幼児等の対象拡大は、諏訪地方3市と共同歩調で引き上げてきた経過がある。今後も、検討課題とする。障害者の対象拡大については、検討・研究する。





河西 猛議員

ものづくり支援

センターの機能

を拡充して

質問 ものづくり支援センターの状況は、どうか。

答弁 4月から図面案件は、33社・83件を受注している。自動車部品関連の見積が増えている。

質問 コーデイネーターを増強して機能拡充をはかれないか。

答弁 今は2人だが、諏訪圏ものづくり推進機構のアドバイザーにも来てもらっている。

町専属で常駐してもらう人の確保は難しいが、今の体制で人材活用したい。設立3年目で、今後の展開も考えたい。

自主財源確保について

質問 自主財源確保のために公用車に看板広告をつけて走らせたかどうか。

答弁 町の広告収入実績は、H24年度120万円。公用車の看板利用は企業とも相談してみたい。

あざみ号は従来バスの側面を広告スペースとして新たに貸し出す。

健康増進を進めることについて

質問 健康増進のため、ポイントをためると公共施設の利用などで特典がつくマイレージサービスを町でやってみたらどうか。

答弁 健康をテーマにまちづくりを進めているので、どれほどの規模のものができるかぜひ研究したい。

生活保護政策について

質問 生活保護受給者の経済的自立支援について。

答弁 ハローワークと県福祉事務所が連携した「福祉から就労」として福祉事務所と町の担当者も同行し、求職活動に行くが、就職に結びつく件数は少ないのが現状。

質問 最低賃金と生活保護費の給付水準の比較はどうか。

答弁 全国では11都道府県ではあるが、長野県では「逆転現象」はない。



大震災に学ぶ

危機管理施策は

だれもが安心できるまちと暮らしを！

質問 大震災の教訓を活かした、災害対応力の強化について。

答弁 大震災から学ぶべきことが多い。力を結集し、様々な減災対策に努めたい。

質問 国・県の基本方針に整合した町の取り組みは。

答弁 国と自治体が連携して対策を進める関連法の整備に注視し、計画の見直し、体制整備を図りながら減災対策を進めていく。

質問 初動時の食料・機材の備蓄確保や、関連企業との物資確保と支援体制は。食料等の支給体制を業者や、町



瀧 章吉議員

内会へ要請し、支援体制を構築しておくべき。

答弁 行政スタッフに限りがあり、民間の協力確保は重要となる。本年度2食分2,200食を確保する。物資確保や応援要請は、覚書や委託契約、他の自治体や関係企業と20協定を締結した。

質問 避難施設となるキャパシティは。施設の安全性の確保は。

答弁 計32ヶ所、受入れは6,980人。施設の耐震工事は完了。

子供・家族が生延びる防災力が要

質問 有事の際は、小中学生も、学校、地域、家庭の貴重な戦力となる。テントの設営、ご飯の炊き出し等、サブイバル知識を習得させるべき。

答弁 可能な限り、実践的な知識の習得にも努めたい。



県の河川治水対策 早急整備強化を！

質問 岡谷市と連携し、十四瀬川の護岸崩落の復旧工事に併せ、この機会にJR線の上流部未整備区間整備を、県に強く働きかけるべき！

答弁 岡谷市と共に強く要望した。護岸崩落改修工事は、十月中旬に国の査定を受けた以降に実施。県は、今年度JR橋上下流部分の測量を行い、未整備部分の改修をJR側と協議すること。



中山 透議員

機構改革について

質問 大課制による課題と問題は。

答弁 痛身を伴う改革を行った。大きな負荷はあったが、意識改革は進んだ。

質問 超勤の対応は。

答弁 H24年は211人、延べ1,447人、16、153時間、内8、299時間、1、985万円余りは各課配分、早く帰る様指導。代休での対応もしている。

質問 大型事業に対する組織改革の検討は。

答弁 時代に合わせて改革していく。パイパス、大社通りなど、色々調整は必要。全体枠の中で対応する。

高齢者対策

質問 天白の運営状況について。

答弁 第6期介護保険事業計画に向け検討中。いかに存続し運営して行くか、1・2年の内に示したい。現在の50床で入居待機者120名。今後特養に特化し、ベッド数を増床したい。

質問 天白の今後は。

答弁 国はH25年より個室ユニット化を進めているが、天白のユニット化は容易ではない。

質問 天白の財政は。

答弁 喜ばれる施設として、自立、持続可能な施設としていく。利用者の要望、民間との競合などを検討、対応して行く。

全国学力テスト

質問 町の状況は。

答弁 小学校は全ての項目で、平均以上。中学校では、国語の活用が平均を上回る。数学活用は、若干平均を下回る。他はほぼ平均並。

質問 今後の方針は。

答弁 生活基盤と学習基盤を連携してつくる。特に朝食は良い結果に繋がる。我が家の約束6項目の活用や、放課後、長期休みの補習、児童、生徒に分かりやすい授業の工夫などに取り組んで行きたい。

いじめ対策

質問 学校内の携帯電話話、持込みの把握は。

答弁 原則禁止。不要の物としている。

質問 携帯電話の取扱いの指導は。

答弁 携帯電話使用の判断は保護者。所持の注意は、学校が連携していきたい。子供が地域に入って行く事で、地域での見守りが出来る、この事が重要。



林 元夫議員

本年度事業の進捗と課題

空き家の実態は

質問 移住促進対策事業の実態調査の進捗状況は。

答弁 空き家と思われる物件は260軒で、立ち入り調査を了解した物件は97軒ある。目視による老朽度調査をしている。

質問 調査をどのように活用するのか。

答弁 移住ガイドブックを作成しPR。また宅建協会と協力し空き家、空地の活用を推進。

質問 土地評価資料整備委託事業など税務関係事業の進捗状況は。

答弁 H26年度に向けた時点修正は、成果品

土地依然下落傾向

答弁 H26年度に向けた時点修正は、成果品

として標準宅地の時点修正率一覧表及び価格一覧表が示され、土地評価は依然下落状況にあるが、若干下げ幅は縮小している。

家屋を解体して固定資産税が上がる可能性がある。

質問 危険住宅解体に税制上の軽減措置は。

答弁 国の補助金に期待する。町独自では難しい。

生きがい

キャンペーンを

質問 高齢者福祉など、町民の満足度調査、ポイント制の導入による、生きがいキャンペーンを。

答弁 商連や会議所と連携するなど研究する。

質問 大雨による災害がおきている。諏訪湖の放流は今430t

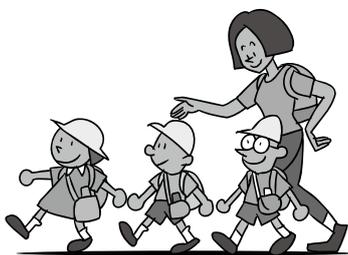
で、600t放流が可能になるまでに時間がかかる。できることは早急に対処して欲しい。

答弁 四王のごみ取り器の設置やウナギ沢の改修など本年度中にやる。

幼児の英語教育について

質問 親子が話すコミュニケーションの手段としても有効な「英語遊び」の導入を。

答弁 現場では日本語もうまくコミュニケーションが取れていない部分もあり、今は考えていない。





津金裕美議員

子育て支援プログラム の成果と 今後は

質問 子育てふれあいセンター・ぽけっとで開催されているB.P、N.P、C.S.Pの三つの子育て支援講座の成果は。平日開催だけでなく、より多くの親が受講できるよう、土日の実施を希望する。

答弁 H24年度は、「親子の絆づくり」「親が親として育つ」「子どもとの接し方」の講座に180人の参加があり、「同じ悩みを抱えている事が分かった」「相談できる仲間ができた」等の声が寄せられ、受講終了後には自主グループを作ったり、ぽけっとに集まったりと好評である。休日の実施は、4回6回

等の連続講座であり、すべて休日開催は、参加者やスタッフの関係から現状では難しい。

答弁 ぽけっとは、多くの利用があり、「ぽけっとー」の皆さんの協力を得て良い型で運営してきている。開館から2年が経過、利用者へのアンケートも必要で、開館要望なども把握する。子育て支援プログラムは、職員も積極的に資格を取得しているが、フル稼働であり内容の充実をはかるには要望を聞いて考えていく。

小・中学校のトイレを洋式に

質問 小学生の中には和式トイレを使わず、「排便を我慢している」子どももいる。生活様式の変化により自宅はほとんどが洋式である。学校のトイレ環境の改善を。

答弁 学校トイレの洋式は、南小では南校舎

の改築で50%、北小では30%、中学校は20%。今後、南小の改築を除き、3校は洋式トイレ設置の対応を図っていく。

防災モニターの 増員について

質問 8月15日の豪雨時には、15人のモニターからの確な状況報告があった。増員についての考えは。

答弁 職員による全町の状況把握と対応には時間がかかるが、今年度からの防災モニター制度で住民の協力を得てより早い対応が取れた。大変感謝をしている。新たな箇所の把握につとめ、協力いただければ拡充をしていく。



小口峯一議員

保護者を失った 知的障害者の支 援について

質問 知的障害者を残して親が他界した場合、事態は深刻だ。町内でも事例があった。

答弁 先般のケースでは、県福祉事務所、民生児童委員、町社協、町など関係者が集まって今後の対応を検討した。

質問 残された障害者が暮らす住居や、金銭管理の問題などどうするのが理想と考えるか、当人は判断できずに途方に暮れる。

答弁 人権尊重で、あくまで本人主体が根拠。行政が判断するのが適当でない事項がある一方、必要な支援には可能な限り動く。金銭管理は、社協の代行

サービスなどある。

質問 こうしたことは希だろうが、今後もあり得る。広域で対応のマニュアル化が必要では。

答弁 マニュアルは難しいが、今回の例とその対処を、しっかりと記録し、今後の備えとするのが肝要。

諏訪湖再生に向 けた取り組み

質問 諏訪湖のヒシは景観上や漁業、なぎさに打ち上げる波を打ち消すといった問題をはらんでいる。昨年は婦人会主導で、関係機関が高浜港でヒシを抜く作業をして大成功を収めた。

答弁 昨年以前から郡の婦人会も含め、積極的に取り組んでおり、積み重ねの作業を高く評価。諏訪湖の新たな問題のヒシに、いち早く視点を持ち、きつい作業を何年もやっていることに感謝する。そ

の活動が、ヒシ取り機導入など県を動かしているのではないかと。

質問 菱葉虫が発生し、高木から大和にかけて、例年より大量に発生した。

答弁 今年については、実を付けて沈んだ。県に申し入れたい。ヒシの刈り取りは一回だが、来年以降は同じ場所を二回刈り取りも。

質問 諏訪湖再生が叫ばれている。砥川にはワカサギが遡上、高浜港には、手長エビが棲んでいた。甞れ諏訪湖、元氣になれ諏訪湖の下諏訪版を提案したい。

答弁 観光や、スポーツゾーンなど、諏訪湖を多面的に捉えた湖として、下諏訪らしく、下諏訪を生かした活動を検討したい。





小池忠弘議員

新年度予算、

施策の展望は

質問 これから来年度の予算編成時期に入る。国の各省庁概算要求も出たが、消費税増税が国民負担として大きいのしかかり可能性もある。町長の見解は。

答弁 概算要求が地方にどう影響するかは大きな問題。税収がどうなるか見定めが必要。「税と社会保障の一体改革」についても注視したい。

質問 新年度の予算編成の町長の基本的な考えは。

答弁 町の総合計画、行財政経営プランを基本に、南小改築、庁舎耐震改修、赤砂崎防災公園化など大型継続事業を柱に住民要望に沿う形で取り組んでい

く。
質問 新規事業など力を入れたい事業、予算規模はどのくらいか。

答弁 毎年5項目をバランス良く取り組み、財政基盤の確立は赤砂崎で解決できた。今後は町民の健康をどう守るか、健康と福祉を重点課題にし、健康スポーツゾーンづくりを力をつけたい。予算は80億円程度の大型規模になるであろう。

湖周ゴミ施設、

進捗と課題は

質問 建設の入札参加が4社と報道されたが、透明性という点で参加業者名は公表すべき。施設整備計画での進捗、国の交付金の見直しはどうか。

答弁 10月中までに選定委員会で審査し落札社の決定および公表。業者公表は組合は避けたいとしている。今年度交付金は予定の65%の分配、補正もあり得

ると思う。来年は概算要求が1・6倍の枠要求で期待している。

最終処分場見解

は

質問 焼却灰の最終処分場について、諏訪市は「できるだけ小さく」とし、民間業者に横出しというが、当初の考えと違うのではないか。諏訪市からの説明はあったのか。

答弁 組合としては排出総量7万6千m³という認識。半分以下という意向は組合のテーブルに乗っていない。諏訪の事情で横出を含めて決定していくとして、諏訪市からの説明を受けてから議論していく。



中村國彦議員

水資源保全条

例地域指定への

対応

質問 県の水資源保全条令に基づく基本指針が公表された。市町村の役割はなにか。

答弁 地下水取水に関して条令などにより規制を課すなど、独自の判断で水資源の保全に努める。

質問 保全地域指定に向けた町の対応は。

答弁 地域指定については、来年度の指定に向け、対象地や土地所有者を拾い出し進めていきたい。

質問 26年度に向けた指定範囲はどうなるか。条例化はどうか。

答弁 県の指導の中に広範囲の調査に渡る場合は、取水地を含む1キロメートルの範囲で

も可となっている。諏訪広域での検討会議や県の指導も踏まえ条令化に取り組む。

再生可能エネルギー

導入の取り

組みは

質問 小水力発電や温泉熱利用など再生可能エネルギーの取り組みを。

答弁 ものづくり支援センターで、今年度小水力発電、燃料電池の各研究会を立ち上げた。温泉熱利用のヒーターも開発中で、10月には試作機を発表する予定でいる。

生活弱者への

支援策について

質問 生活保護と高齢者世帯の実態は。

答弁 生活保護は町内87世帯で、うち47世帯が65歳以上。全町の1人暮らし高齢者は、実質694人。

質問 低所得の高齢者を支援する制度や体制づくりは。

答弁 生活弱者や困窮者の居場所が無くなる事が無い様、生活に寄り添う形で相談業務に力をいれる。

質問 生活保護と高齢者世帯の実態は。

答弁 生活保護は町内87世帯で、うち47世帯が65歳以上。全町の1人暮らし高齢者は、実質694人。

質問 低所得の高齢者を支援する制度や体制づくりは。

答弁 生活弱者や困窮者の居場所が無くなる事が無い様、生活に寄り添う形で相談業務に力をいれる。



文化財について

質問 史跡の再確認や文化財の掘り起こしで学芸員不足対策は。

答弁 専門職の学芸員を中心に文化財把握に努める。地域に眠る宝を地域住民が意識し発掘し生かす必要がある。



松崎茂彦議員

気掛かりです

税金などの自主 財源収入が減少 傾向

質問 歳入総額に占める自主財源が減少してきている。地域福祉の推進など行政サービスは税中心の歳入で賄われるべきだが、プライマリーバランスも赤字の状態。自主財源の増強には地域自立の産業政策が不可欠。大きなテーマではあるが、自主財源増加のスキームづくりが急務と思われるが。

答弁 当町は他の町村より財政力はある。ものづくり支援や観光振興計画により、産業構造を変革していく。

町民一人当たりが負担する額は？

質問 地方債の残高は最高九十九億円になるとお聞きした。現在町民一人が負担している公債費（償還金）の額は約三万四千円だが、増加は避けられない。公債費負担の適正化に関する目標計画はあるか。

答弁 これまでも公債費の縮小に努めてきたが、負担が多くなることを避けるよう計画をもってやっている。

進む少数精鋭化！

質問 地方交付税の増加要素となった町職員数の削減の状況は。

答弁 平均で293人から220人に24.9%削減。

質問 役場組織の活性化と人材育成を目的に人事考課が実施されているが、昇格昇給などにどのように反映されているか。

答弁 現行は反映していない。モチベーションアップにつながる人事考課のアドバイスが出るか。

事考課を行う。

バイパスと

アクセス道路

質問 バイパスの整備促進が進む中、アクセス道路は町の将来を決める重要な社会基盤。町のビジョン百年の計として、町独自の構想はあるか。

答弁 大変重要なことであり、県や国に必要な要望をあげている。



山王閣の今後

質問 山王閣の町の観光振興に及ぼす影響は大きい。今後の方向付けのタイムリミットと思われるが。

答弁 町が主導的に考えることはできない。課題のアドバイスが出るか。



藤森スマエ議員

認知症高齢者対策と町の高齢者

施策は

質問 高齢化が進む中、認知症が急速に増加している。把握は出来ているか。対応策は。

答弁 細かい人数把握は困難。地域活動支援センターを拠点にした見守りなどで確認に努めている。下諏訪のグループホーム入居は54人定員で25人である。

質問 ハイム天白は、「自治体の責任として存続させていく」という町長の強い思いを感じた。高齢化率が一番高い町としての施策は。

答弁 高齢者の皆さんが、健康で生きがいを持っていきってくれるかが大切。いろんな所で活躍してもらえるところ

を作っていきたい。
質問 災害時要支援システムの現状と今後の対応は。

答弁 登録申請は、ここ一年で46人増で、781人になった。システム地図上には、地域支援者と要支援者全員記載済み、名簿は本人の了承を得て、自主防災会や民生委員へ渡している。



高齢者のパソコン教室について

質問 以前文化センター内でパソコン教室をやっていたが、今は出来なくなっている。パソコン教室を是非復活してほしい。

答弁 文化センターを利用した自主グループのインターネット使用は、ウイルス対策、不正アクセス等セキュリティ問題から開放は

困難。高齢者能力開発センターは10名は使用可能。文化センターでの回線の構築が可能か検討したい。

質問 今度出来る高浜温泉施設でのインターネット使用を可能にしてほしい。

答弁 環境整備は前向きに検討する。

期日前投票所について

質問 期日前投票所は狭くて圧迫感がある。文化センターロビーに設置できないか。

答弁 期日前投票所は選管事務所と併設が望ましいので、変えられない。

質問 消防団員の減少に歯止めがかからない。団員特典の考えは。

答弁 商工会議所の協力で優遇策を検討中。年度内に制度化したい。

今、私たちは議会改革を 進めています

より「開かれた議会」を目指して

アンケートの主な意見

議会と議員について	地方議会と議員のあり方 広い視野に立っての議会活動
開かれた議会について	TVチャンネルや、ネットによる本会議の映像配信 議案、陳情・請願に対する賛否の公表 議会報告会の開催 各種団体等との懇談会や意見交換会 議会だよりの発行 夜間・休日議会の開催
効率的な議会運営と経費削減について	資料のペーパーレス化、電子化 本会議場、委員会室でのパソコンの使用 会議録の電子化 本会議上における委員長報告の簡略化
議会基本条例について	制定の再検討と制定
議員研修・勉強会等について	議員同士の議論の活性化 研修・勉強会の開催 議員の政策立案

議会改革については、議員の任期毎に、その時々々の状況を踏まえて議員間の中で議論されて来ました。近年では平成17年に、議決によって議会改革委員会を設置し議会改革に取り組んできています。この平成17年度の議会改革の内容は、議員

の定数削減、それに伴う委員会構成と、委員会定数を決めるものでした。今回の議会では（平成23年）、多くの議員が選挙公約で、議会改革を挙げてきています。平成23年11月には、議長の諮問機関である議会運営委員会が主になって、

議員全員に議会改革のアンケートを採り議会改革に邁進しています。アンケートで集約された主な意見は、表のとおりです。

アンケートを基に 議論開始

平成24年1月からは、議会運営委員会の検討委員会として、任意の議会改革検討委員会が設置され、議会運営委員会と並行して検討をして参りました。

検討結果の一つとして今回の議会だよりに発行にもつながっています。

- 議会だよりにについては、新聞で取り上げられていない内容を、載せたい
 - 開かれた議会として、発行したい
 - 議会が行っていることを知ってもらうためにも、発行したい
 - 定例会ごとの、発行が望ましい
 - 議案質疑の内容を掲載したい
- 等の多くの意見が出され、議会の中に任意の議会だよりに編集委員会を設置して発行することが決定されました。

議会基本条例 策定に向けて

また、現在多くの議会で検討・策定されている議会基本条例につ

いても検討がなされ、策定には多くの意見や想いがあり、全議員が共通の認識を持ち対応すべきとの結論となり、任意の議会基本条例策定委員会が設置され、原案作りが進められました。次回の議会報告会までには、住民の皆さんの意見も取り入れられる準備しながら、制定に向け進めてまいります。

是非皆さんも、議会の傍聴などを通じて議会の活動をご覧いただき、ご意見をお寄せください。皆様とともに、よりよい下諏訪町を創造していくために、議員一同力を尽くす覚悟です。今後の議会活動にご期待ください。

次回の議会報告会を

1月25日(土)午後文化センターでの開催を予定しています。詳細が決まり次第お知らせいたしますので、是非ご参加ください。

議 会 報 告 会 ア ン ケ ー ト 集 計 表

平成25年1月25日(金) 参加者71人 回答者31人 回収率43.7%

1 年 齢

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
人数	0	1	1	3	11	5	9	1	31人
割合	0.0	3.2	3.2	9.7	35.6	16.1	29.0	3.2	100.0%

2 今日の議員の説明はわかりやすかったですか？

	わかりやすかった	普通	わかりにくかった	不明	合計
人数	8	11	4	8	31人
割合	25.8	35.5	12.9	25.8	100.0%

※「わかりやすかった」に追記・・・ダメな人もいる。

3 下諏訪町議会は町民の皆さんに「開かれた議会」だと思いませんか？

	そう思う	少しそう思う	あまり思わない	思わない	わからない	不明	合計
人数	4	11	9	4	1	2	31人
割合	12.9	35.5	29.0	12.9	3.2	6.5	100.0%

4 また議会報告会があれば参加したいと思いませんか？

	参加したい	どちらともいえない	参加したいと思わない	不明	合計
人数	26	1	1	3	31人
割合	83.9	3.2	3.2	9.7	100.0%

議会報告会を開催して

平成25年1月25日、文化センターにおいて開催した議会報告会に、71人の町のみなさまにご参加いただきました。その時に実施したアンケート集計結果をご報告します。これからの議会運営や、議会報告会に反映してまいります。ご協力ありがとうございました。

「開かれた議会」だと思いか」の設問では、「議員さんと話しやすいため、それぞれのお考えを身近に伺うことができた」など、そう思うと答えた人が12・9%で、「今回のような企画等『開かれた議会』への努力が感じられる」として、少しそう思うと答えた人は、35・5%でした。しかし、「開示される情報が少ないと思う」など、あまり思わない・思わない人が41・9%と、まだまだ『開かれた議会』には程遠いと言わざるを得ません。

色々なご意見をいただきました。以下に、主だった意見を付記させていただきます。

議会報告会について

- 毎年の開催を。
- 開催時期を変更、検討してほしい。寒中ではなく、暖かい時期が良い。昼間にしたらどうか。
- 小規模で良いので、地区毎に頻度を高めて行なうべきと思います。
- パワーポイントの中で見にくい内容もあったので、各自に資料が欲しかった。
- プロジェクターを活用し、わかりやすい資料が用意されていて、とても良かったと思う。
- 議会のしくみ、町との関係の説明は大切ですが、町民はどのような形で町政に参画出来るかという点にも、触れてほしかったです。例えば、陳情、請願など行うことが出来るという点などです。具体的に審議された案件について報告されたが、今ひとつ内容が理解されないのではないかと思います。全町対象ではなく、地域を分けて議員複数名で懇談会形式で行う事はどうでしょうか。
- 夜間や休日など、開催回数を多くすべき。
- 今、町にどんな問題があるのか等の投げかけを常に議員が行い、町民の意を少しでも汲みあげていく姿勢が必要だと思います。



第22回全国市町村交流レガッタ 阿賀大会へ出場

9月28日、29日の両日、全国ボート場所在市町村協議会が主催する大会が、新潟県立津川漕艇場で開催され、下諏訪町から全7クルーが出場、議会クルーも参加しました。

議会クルーは、惜しくも準決勝進出は逃しましたが、会場ではやしまる、万治くんと共に、持参した町関連のパンフレット100セットを配布して町のPRにつとめ、他市町村との交流も深めました。



手前から2艇目が当議会クルー

議会報発行にあたり

このたび下諏訪町議会が久しぶりに議会報を発行するとお聞きし、大変うれしく思います。今議会においては、以前に増して開かれた議会を旨し、議会報発行だけでなく、以前制定寸前で頓挫した「議会基本条例」制定を目指されている事、前議会等で始めた「議会報告会」も継続する等、大変努力されていることに敬

《議会雑感》



元下諏訪町議会議長

山田 貞幸

意を表します。

「議会報」は単なる「報告」でなく、各議員の公約の検証、日々の活動状況、町民の皆さんの声等の掲載により、他の議会にない特色あるものなることを期待します。

終わりに、残された任期中、議会の在り方を再確認し、議員の使命・職責を果たしていただくようお願いいたします。それが、町民益に繋がることと信じます。

みなさまのご意見大募集!!

町民のみなさまにとって、より身近な議会でありたいと思います。また、みなさんに親しんでいただける「議会だより」の発行を目指してまいります。

- 議会への質問
- 議会へのご意見・ご要望
- 傍聴してのご感想
- 「議会だより」へのご意見・ご感想
- 「議会雑感」への寄稿

などを、是非お寄せください。

宛先：議会だより編集委員会

〒393-8501 諏訪郡下諏訪町 4613 番地

TEL 0266-27-1111 議会事務局内

✉ gikai@town.shimosuwa.lg.jp

編集後記

「議会の中身がなかなか見えない」と言う声をたびたび耳にする中、広報の発行で、より身近に議会をとらえていただきたい―「議会改革」の議論を重ねる中で、定期的な「議会だより」の発行が決まりました。

約七年ぶりの発行となった本号は、いかががでしょうか。「あれも、これも」と思う気



持ちが、先走りがちだったかも知れませんが、今後、試行錯誤を繰り返して、みなさんに興味関心を持って読んで頂ける紙面作りになります。次号は、来年3月議会後の発行となります。(金井)

議会だより編集委員会
委員長 金井 敬子
副委員長 林 元夫
委員 松崎 茂彦
委員 中山 透